

デンソーテングループ CSR報告書 [ダイジェスト版]





社名「デンソーテン」の「デン」は、最高・至上を意味する「天」のことです。
中国古典の「中庸」に「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり」という一節があり、
「誠」を企業経営の基本理念として大切にしています。

企業理念

私たちは、「誠」を大切に働きお客様・社会に貢献します。

○お客様第一 品質至上

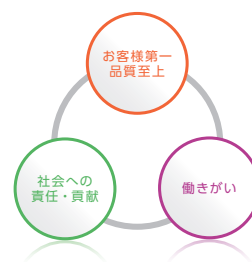
私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く商品を生み出します。

○社会への責任・貢献

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

○働きがい

私たちは、一人一人が誇りを持って働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。



デンソーテングループ 企業行動宣言（CSR方針）

私たち、デンソーテンは、製品の提供を通じて人と車のより良い関係づくりに貢献し、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。この目標を実現するため、私たちは、「誠」を大切に、「デンソーテン企業理念」に基づくこの「デンソーテングループ企業行動宣言」を実践してまいります。

□お客様

お客様第一、最高の品質、期待の先を行く製品・サービス
安全性、品質の向上
個人情報の保護

□従業員

人権尊重
強制労働・児童労働の禁止
働きがいの実現
公正な労働条件、安全な労働環境

□取引先

共存共栄の実現
透明で公正な取引機会、公正な関係

□株主

企業価値の向上

□環境

環境負荷の低減

□社会

適切な情報開示
国際ルール、各地域のルールの順守
公権力との公正な関係
反社会勢力との関係遮断

□社会貢献

豊かな社会・地域づくりへの貢献

※「企業行動宣言」の全文は、「CSR報告書【詳細版】」および当社Webサイトに掲載しています。

編集方針

デンソーテングループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとCSRに関する情報をわかりやすく開示し、さまざまなステークホルダーの方々とのコミュニケーションを図ることを目的に、毎年「デンソーテングループCSR報告書」を発行しています。

2019年版の「CSR報告書【ダイジェスト版】」(本PDF)は、2018年度における重要な取り組みやトピックスを中心に、コンパクトにまとめて報告しています。

また、より詳細な情報を網羅的に報告した「CSR報告書【詳細版】」を、当社Webサイトで公開しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

ISO26000:2010 - 社会的責任に関する手引き

GRI「サステナビリティ・リポーティング・スタンダード」

報告期間

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)の活動を中心に報告しています。ただし、それ以外の期間の内容も一部含みます。

本報告書の想定読者

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政などのステークホルダーの皆様を読者と想定しています。

報告対象組織

デンソーテングループ全体およびデンソーテングループ各社の活動を報告しています。ただし一部に、特定の範囲あるいは拠点のみを取り上げたデータや事例を含みます。

将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、デンソーテングループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。

したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがありますが、デンソーテングループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

CONTENTS

企業理念	1
企業行動宣言(CSR方針)	
編集方針	2
トップメッセージ	3
事業のご紹介	
VISION2022:事業ビジョン	5
事業概要	6
特集:事業を通じた社会への貢献	7
デンソーテングループのCSR	10
重点課題分野の取り組み	
■消費者課題	12
■環境	14
■人権・労働慣行	16
■公正な事業慣行	19
組織統治	20
社会への貢献	21
財務報告	22
会社概要/事業所一覧	23
第三者意見/ご意見への回答	24

「誠」を基本に、常に志を高く持って 社会課題の解決に挑戦し、 さらなる成長をめざします

株式会社デンソーテン
代表取締役社長

加藤之啓

デンソーテンは、創業以来、「誠は天の道なり」を経営理念に、事業を通じてお客様・社会に貢献することを使命としています。世の中の変化の兆しをいち早く捉え、常に新技術開発の先駆者として、世界初・業界初といった製品を世に送り出すことで、新たな価値を創造し、成長してきました。

自動車業界では、100年に1度といわれる大きな転換期の中で、コネクティッド・自動運転・電動化・シェアリングサービスといった分野での技術革新の進展や、「MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)」*の関連分野などにおける自動車業界の枠を超えた提携の動きの拡大が見込まれています。

私たちは、このような環境の変化を着実に捉え、コックピット、コネクティッド、電動化領域を核としてクルマの付加価値を高めることで、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献するとともに、自らの新たな発展に挑戦

してまいります。

また、私たちは環境や社会に対する影響に配慮した活動にも取り組んできました。パリ協定やSDGs(国連が掲げる持続可能な開発目標)の達成に向けて、当社の果たす役割は大きいと考えています。たとえば、エンジンのさらなる低燃費化・低排ガス化やEV(電気自動車)の低電力消費を実現する先進の制御技術開発、サプライチェーンを通じたCO₂削減、個人の事情に合わせた柔軟な勤務制度の導入をはじめとする働き方改革、健康経営の推進などに取り組むことで社会の期待に応え、国際社会・国際地域に信頼される企業をめざします。

私たちは、これからも、常に志を高く持って社会課題の解決に果敢に挑戦し、SDGs達成に貢献することで、さらなる成長をめざしてまいります。

* ICTを活用して、あらゆる交通手段をシームレスにつなぎ、目的地までの移動をワンストップで提供すること

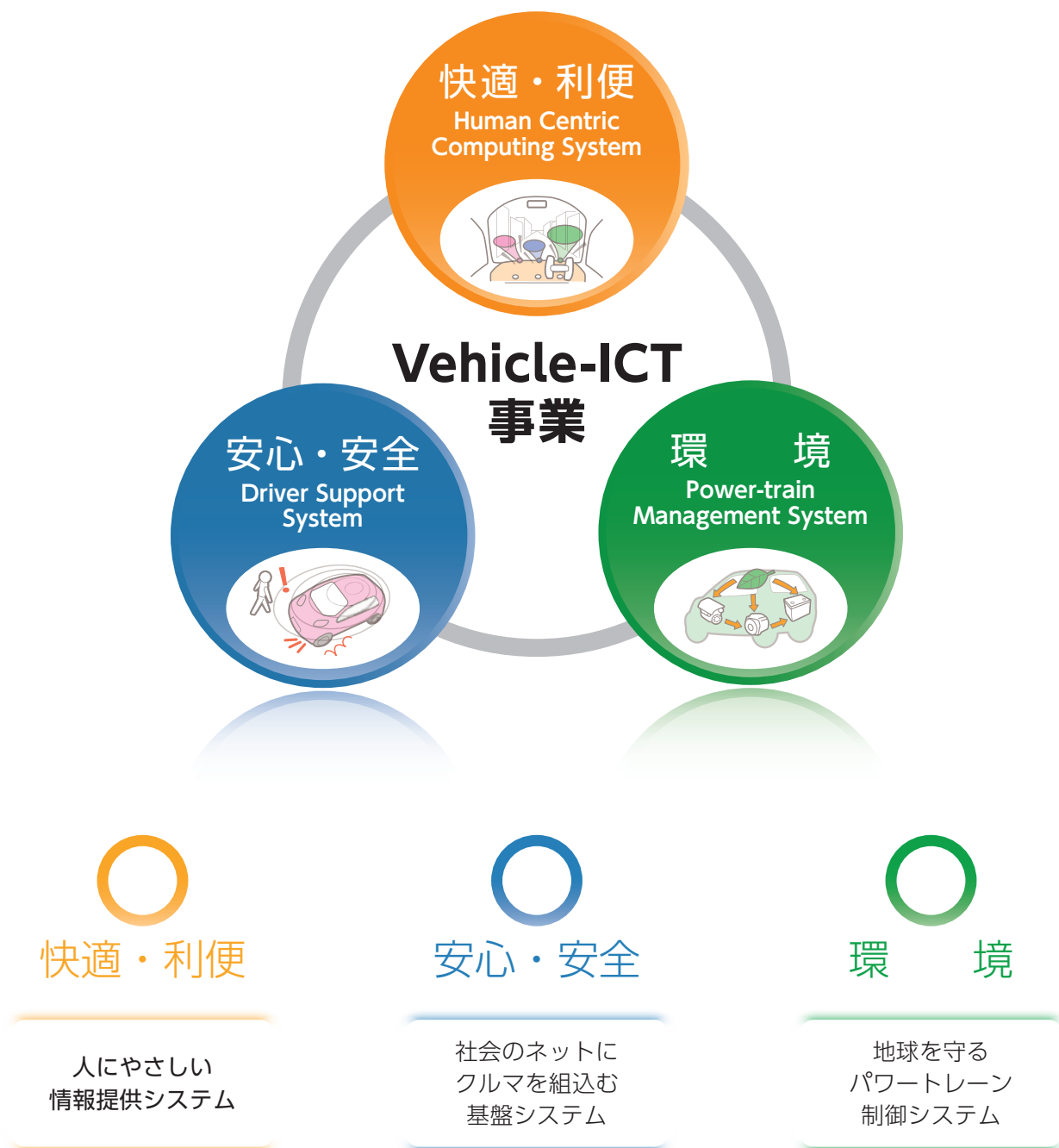


人とクルマと社会の間に、デンソーテン

デンソーテングループは、これまで培ったクルマづくりの技術とICTを活用した独自の「つながるテクノロジー」で人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

事業ビジョン

人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、
自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献します。



事業領域と製品

ICTによる情報の相互利用、シームレス化に適応し、一人一人に寄り添ったカーライフを実現します

快適・利便

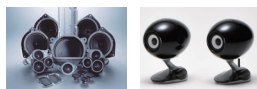


交通状況や駐車場の空き情報、目的地の天気をリアルタイムで情報提供。さらに、ドライバーの気分や健康状態を察し、その日、その人に最適な情報を最適なタイミングでお届けすることをめざしていきます。

カーナビゲーション、ディスプレイオーディオ、CDチューナー



音響システム・アンプ



AI活用タクシー乗車需要予測サービス



クラウド型タクシー配車システム



独自のセンシング技術と周辺監視技術により、クルマの安心・安全を社会全体に広げていきます

安心・安全



クルマと歩行者や街、道路情報をつなぐ安全運転支援システムの実現をめざし、事故を未然に防ぐ、万が一のダメージを最小限にするなど、さまざまな角度から安全運転をサポートする製品を生み出していきます。

緊急通報システム



エアバッグECU



セキュリティシステム



クラウド連携ドライブレコーダー



燃費向上・CO₂排出量削減など移動エネルギーの最適化を実現し地球環境に貢献していきます

環境



燃費の向上や排出ガスの低減を実現させるシステムの開発に積極的に取り組んでいきます。多様に進化する動力源の効率化や制御する製品により、クルマはもちろん、街、社会全体のエネルギー利用を最適化していきます。

ハイブリッド専用ECU



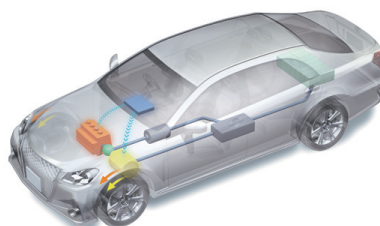
電動パワーステアリングECU



エンジン制御ECU



バッテリーマネジメントシステム



特集：事業を通じた社会への貢献

デンソーテングループは、豊かなモビリティ社会の実現に向けて、「安心・安全」「快適・利便」「環境」に関わる製品・サービスをつくり出すことで、社会的課題を解決するとともに、新たな価値をお届けしています。

AIを活用した需要予測サービスを タクシー事業者へ提供



タクシーは地域社会の移動ニーズに応える重要な交通機関として「安心・安全かつドアtoドアで人の輸送」を担っています。

人口減少などの影響でタクシー利用者が減少する中、タクシー会社の持続的な経営のためには、より利用効率を高める取り組みが必要になっています。また、労働人口の減少によるドライバーの高齢化や長時間労働の問題も深刻化してきました。

当社は、タクシー業界のニーズに精通したベンダーとしての高度な技術力と、タクシー事業者と共に培ってきたノウハウを生かし、さまざまな製品・サービスで、これらの課題解決に貢献します。

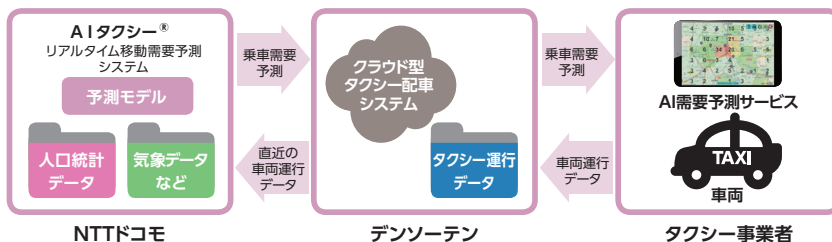
ここでは、2018年8月に販売を開始した「AI需要予測サービス」についてご紹介します。

AI 需要予測サービスとは

人工知能を用い、人口統計データ^{*1}や気象データ、タクシー運行データなどから、未来のタクシー乗車需要を予測する株式会社NTTDコモの「AIタクシー[®]」^{*2}を、デンソーテンのクラウド型タクシー配車システムで利用できるサービスです。

^{*1} 本サービスで使用する人口統計データは、エリアごとや属性ごとの集団の人数を示す情報であり、お客様個人を特定できる情報を一切含みません。従って、この人口統計データによりお客様の行動が他人に知られることはありません。なお、本サービスで使用する人口統計データは、モバイル空間統計ガイドラインを順守しています。
^{*2} 「AIタクシー」は株式会社NTTDコモの登録商標です。

Web ▶ モバイル空間統計ガイドライン



わかりやすい表示画面

500m四方のエリアごとに、30分間の乗車需要を10分単位で予測して、地図に色と数字で表示します。

- ・直感的に把握できるインターフェースを採用
- ・流し営業に便利。30分以内で移動できる地域をデフォルト表示
- ・需要予測結果と事業者様ごとのリアルタイムな空車車両の位置情報を組み合わせることで、よりの確な需要情報の提供も可能
- ・将来はナビ(ルート案内)と組み合わせた高需要ポイントへの誘導で効率的な運行をサポート

需要予測表示

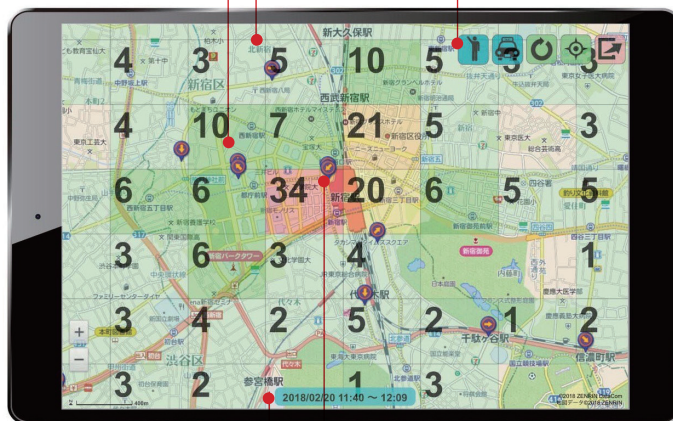
500m四方のエリアごとの乗車台数の予測を数字と色分けで表示

表示方向

タブレットやスマートフォンの縦/横表示に対応

表示切替

お好みに合わせ画面表示を選択
 ・乗客獲得確率の高い予測ポイントの表示/非表示
 ・需要予測台数の表示/非表示
 ・再読み込み



著作権表示：
@2018ZENRIN 許可番号：Z17MA第012号

予測対象時間表示

表示中の需要時間を表示

乗客獲得確率の高い予測ポイント表示

・乗客獲得確率の高い予測ポイントにマーカーを表示
 ・走行方向がわかる矢印表示

Voice 開発者の声



AI需要予測サービスは、従来の注文に対して効率よく配車するシステムとは異なり、流しや乗り場の運行をサポートします。

2018年度は配車車載端末(ナビ)にAI需要予測機能を搭載しましたが、今後は、ナビ機能との連携により、高需要ポイントへの誘導も図ってまいります。

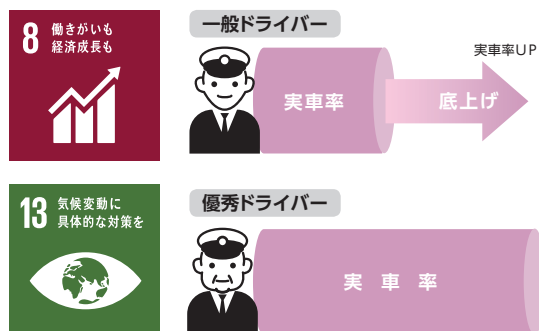
コネクティッド事業本部 第三技術部 設計室 第一設計課 村上 憲市

期待できる効果

①流し営業を支援 — 空車走行の減少で業務効率化

ドライバーごとの実車率のばらつきを解消し、底上げを図ります。

また、お客様を乗せずに走る距離が減るため、ムダなエネルギー消費を低減でき、CO₂削減につながります。



②利用者の利便性向上 — 待ち時間を短縮

急いでいるのに、なかなかタクシーが通るかからない。そんなイライラを解消。

公共交通機関のトラブル、ゲリラ豪雨などの突発的な状況や、コンサート帰りなどの非日常的な乗車需要増加への対応がスムーズになります。



③不慣れたエリアでも効率的な営業

不慣れたエリアを走行する際にも、次のお客様を獲得しやすいエリアが確認できます。



④ドライバーの人材不足改善

経験の浅い新人ドライバーも安心して乗務できるので、深刻化するドライバーの確保と定着率向上に貢献します。



タクシー無線開発の実績を活かして、社会とタクシーの架け橋に

当社は、前身である神戸工業時代の1954年にタクシー用無線機を製品化して以来、1996年に自動配車システム、2003年にデジタル配車システム、2015年にクラウド型配車システムを開発するなど、60年以上にわたりノウハウを蓄積し、進化を遂げてきました。

これまで開発・提供してきた技術や製品は、車載に特化したデータ収集や無線通信、ドライバーに情報を確実に伝えるHMI^{*3}、データから有益な情報を抽出する情報システム、さらにはそれを活用したサービスまで多岐にわたります。

今後も、あらゆるクルマがネットワークにつながる時代を見据え、人とタクシー、社会とタクシーの架け橋となり、すべての人に自由で快適な「移動体験」を提供していきます。

^{*3} HMI (Human Machine Interface) : 人と機械の間で情報をやり取りするための機器やソフトウェアなどの総称

1996年 自動配車システム



2003年 デジタル配車システム



デンソーテングループのCSR

デンソーテングループは、「『誠』の精神こそがCSR活動の源泉であり、CSR活動は企業理念に基づく事業活動そのもの」との考えのもと、さまざまな活動を通じてステークホルダーの皆様から信頼される企業をめざしています。

CSR重点課題

2016年に、さまざまな社会的課題の中から「ステークホルダーにとっての重要度」「当社にとっての重要度」の2つの軸でマッピングを行い、優先的に取り組むべき重点課題（マテリアリティ）を特定し、ステークホルダーの期待や要請に沿ったデンソーテンらしい活動を推進しています。

デンソーテングループのCSR重点課題



推進体制

グループとしての一体的なCSR活動の方向性を議論する場として、2017年からコーポレート部門の関係者による「コーポレートCSR会議」を定期的に開催しています。

2018年度は、新たに品質保証・調達・知的財産・サービスの各部門をメンバーに加えて、活動範囲をコーポレート部門以外にも拡大し、名称を「CSR会議」に改めました。

2019年度からは、事業を通じた社会課題の解決に向けた取り組みを強化するため、各事業部をメンバーに加える計画です。

SDGsへの対応

デンソーテングループは、2015年に国連で採択された2030年をゴールとする「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に、事業を通じて貢献することをめざしています。

2018年度は、CSR重点課題およびKPI(重要業績評価指標)の見直しに向け、現状のKPIを整理したほか、SDGsの169のターゲットから当社に関わりのある項目を抽出しました。

2019年度は、CSR重点課題およびKPIの見直しを行うとともに、従業員に対する啓発活動を通じてCSRの浸透を図る計画です。



2018年度の主な活動と関連するSDGs

重点課題		2018年度の主な取り組み・成果	関連するSDGs	関連ページ
消費者課題	お客様データの保護	●「個人情報保護方針」に基づく規定の整備・従業員への周知徹底(継続)		P.13
	お客様満足度の向上	●ISO9001およびIATF16949に基づく品質保証体制をグローバルに運用(継続) ●全従業員がQCサークル活動(小集団活動)を実施(継続)		P.13
環境	製品による環境への貢献	●オーディオパワーアンプをスーパーグリーン製品に認定 ●「デンソーテングループ エコビジョン」に基づき、第8期環境取り組みプランを見直し	     	P.14-15
人権	デューディリジェンス(人権の尊重)	●新入社員の入社時教育や昇級時の階層別研修において、人権関連のプログラムを実施(継続) ●管理職を対象に「知っておきたいLGBT」をテーマに講演会を開催		P.16
労働慣行	人材の多様性(ダイバーシティ)	●各階層を対象としたダイバーシティの重要性に関する研修、ダイバーシティに関する意識調査、イントラネットを通じた情報発信を実施(継続) ●若年層の女性社員に、今後のキャリアを考える機会として、先輩社員との座談会や社外で活躍する女性管理職と交流するフォーラムを開催(継続)	  	P.16-17
	ワークライフバランス	●フレックスタイム勤務のコアタイム変更、育児・介護を理由とした在宅勤務など、個人の事情に合わせた柔軟な働き方を可能にする勤務制度を導入 ●介護についてイントラネット上で気軽に学べる動画コンテンツを導入	 	P.17
	従業員の健康推進	●デンソーテンが「健康経営優良法人2019(大規模法人部門)～ホワイト500～」に初認定		P.18
公正な事業慣行	公正・公平な取引	●協力会「天栄会」のテーマ研究部会で災害時緊急ガイドラインの見直しを提案	 	P.19

重点課題以外の取り組み

組織統治	●TNPHが事業継続マネジメントシステムの認証を取得		P.20
コミュニティへの参画	●障がい者スポーツへの支援を強化		P.21

ステークホルダーとの対話の機会

ステークホルダー	対話の機会・ツール	ステークホルダー	対話の機会・ツール
お客様	お客様訪問による情報交換 お客様相談窓口(電話・Eメール) ユーザーアンケートはがき 展示会(モーターショー/技術展示会)	株主	株主総会 各種説明会 事業報告書・アニュアルレポート
従業員	職場力向上アンケート イントラ社内報 上司面談 相談窓口(人権/キャリア/こころの健康) 定例労働協議会 コンプライアンスライン	環境	CSR報告書 近隣企業との環境交流会 環境展示会への出展 地域環境保全活動への参加
取引先	仕入先総会/生産動向説明会 天栄会(総会/各分科会) 自主点検調査(品質/環境/CSR) コンプライアンスライン	社会(地域)	定期的な対話会・情報交換会 地域行事への参加・協賛 工場見学・工場招待イベント 地域防災福祉コミュニティへの参画 地域社会への貢献活動

お客様に役立つことを第一に考えます

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努めることで、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。

また、お客様の個人情報を正当な方法により収集し、利用目的を明確にした上で厳重に取り扱います。



お客様相談窓口の取り組み

市販製品に関するお客様からのお問い合わせに対して、お客様相談窓口では「一人一人のお客様に寄り添う対応」を心がけています。

- つながりやすく、質の高い対応をめざしています。
- 着信直後にお問い合わせ内容に合う番号を選択していただくことで、相談内容に適したオペレーターへおつなぎしています。
- お客様の声の傾聴に努め、それらを分析し、改善に取り組むとともに、社内へフィードバックしています。

Web ▶ ECLIPSE お客様サポート

修理対応

国内では、全国87拠点の認定サービスショップ（以下SS）が製品の修理にあたり、全国3か所のフィールドサポートセンター（以下FSC）が故障診断など技術面でSSをサポートしています。海外では現地法人10拠点、FSC13拠点、SS13拠点の体制を構築し、地域に密着したサービスを提供しています。

- SSおよび集中修理拠点のスタッフを対象に、サービス技術力に関する認定試験を毎年実施することで、サービスレベルの維持・向上に努めています。
- 「早く・安く・確実な修理」をめざし、最小部品単位での修理を行っています。
- 国内・北米・欧州の修理拠点にBGA-ICへの対応が可能な「高機能リワークシステム」の導入を進め、新たに加わった修理対象基板の修理手順などを記載したマニュアルを各拠点に提供しています。

Voice 従業員の声



第一サービス室 サービス総括課は、お客様からのお問い合わせへの対応や、製品故障時の修理対応がグローバルで円滑に運用できるよう、体制企画や運用支援を行っています。

また、当課では修理に必要な修理マニュアルを作成しており、最小部品単位での修理を確立することで安価な修理対応や、廃棄部材の削減にも貢献しています。

今後も、お客様の満足度を向上していけるよう、チーム一丸となって取り組んでいきます。

サービス部 第一サービス室 サービス総括課 岡村 太斗

お客様データの保護

当社グループは、お客様の氏名、住所、メールアドレスなど特定の個人を識別できる個人情報を適切に取り扱うことは、企業としての社会的責務であるという認識のもと、「個人情報保護方針」に基づいて規定を整備し、個人情報保護の取り組みを実施しています。

さらに、カーナビゲーション本体にはお客様の個人情報が含まれることから、SSにも管理責任者の設置など、個人情報保護の取り組みを義務づけています。

Web ▶ 個人情報保護方針

品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするため、国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点で品質向上のためのサイクルを回しています。国際品質マネジメントシステムについては、ISO9001に加え、自動車産業の規格であるIATF16949の認証を取得し、運用しています。このような取り組みの中で、「デンソーテングループ製品安全憲章」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で、品質および製品安全面の確保を行っています。

●設計、生産、品質保証の役割・連携責任を決め、自工程完結により品質を担保する体制を構築しています。

品質意識の向上・人財育成

全従業員の品質意識、仕事の質の向上を狙い、品質展示会・講演会などを実施するとともに、各職場ではQCサークル活動（小集団活動）を行っています。

2018年度の取り組み

●2018年11月に開催した品質展示会では、パネル展示により、お客様の苦言・苦情、評価結果、重要品質問題の再発防止への取り組みなどを従業員間で共有しました。

Voice 従業員の声



「人財育成・職場活性化・会社貢献」の基本理念のもと、品質管理手法を使い、メンバーと協力して職場の問題・課題を解決していくQCサークル活動に、継続して取り組んでいます。

2018年度の活動では、普段交流が少なかった若手とベテランをペアにして進めることで、若手の新たな発想と、ベテランの知恵で良いアイデアが生まれました。その結果、目標の達成につながっただけでなく、職場の団結力も向上させることができました。

今後もQCサークル活動に積極的に取り組み、さらなる改善に努めていきます。

小山製作所 CI事業本部 製造部 製造室 第三製造課 篠藤 健志（写真右）、井上 勇志

美しい地球を次の世代に引き継ぎます

地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、
企業活動のあらゆる領域で環境負荷低減を進めます。



グリーンプログラックス

製品の環境負荷低減を図るため、法規制のある物質や材料を使わないよう設計部門にて製品環境アセスメントを実施しています。

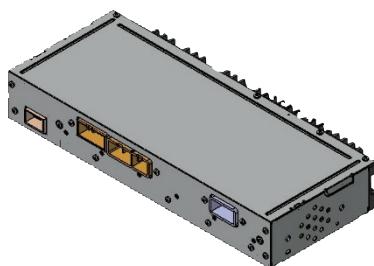
さらに、製品自体の省電力化、小型・軽量化などの評価を実施し、一定基準をクリアした製品を「グリーン製品」と定義し、グリーン製品の中でも環境配慮のレベルが自社あるいは他社の製品と比較してトップグループレベルにあるものを「スーパーグリーン製品」とする社内基準を整備して、エコデザインを推進しています。

2016年度からは、「機能そのものが環境負荷低減につながる製品（環境貢献製品）」も社内基準に含めました。

TOPICS

オーディオパワーアンプをスーパーグリーン製品に認定

オーディオパワーアンプについて、構造の簡素化、部品の小型化などにより、前モデル比 31%の小型化と 41%の軽量化を達成しました。



体積：1,704cm³
質量：1,700g



体積：1,179cm³ **31%削減**
質量：1,010g **41%削減**

Voice 従業員の声



パワーアンプの放熱性能は、システムの要となる音質に直結する要素のひとつです。放熱性能はヒートシンクによって決まりますが、その性能を確保するには、サイズ、重量が大きくなるということが課題でした。今回、ヒートシンク形状の工夫、発熱が少ないICの採用などにより、目標を超えた音質向上と小型軽量化を達成しました。今後はアンプだけでなく、システム全体で小型軽量化を進めていきたいと思っています。もちろん音質にもこだわっていきます！

CI事業本部 音響技術部 BP 入江 邦彦（写真左） CI事業本部 音響技術部 第一技術課 日高 昇



TOPICS

第8期 環境取り組みプランの見直し

2017年11月に制定した「デンソーテングループ エコビジョン」に基づき、デンソーグループの環境行動計画および当社を取り巻く環境変化を踏まえ、2018年7月、環境取り組みプランを見直しました。

活動期間についても、デンソーグループに合わせて、従来の3か年から5か年(2016～2020年度)に変更したほか、基準年度を2011年度から活動期間直前の2015年度に変更することで、第7期環境取り組みプランの最終年度の実績に対して、今期にどれだけ改善していくかを把握しやすくしています。

第8期 環境取り組みプラン 2018年度の目標と実績

分野	取り組み目標	目標	実績	評価
エコ プロダクツ	全ての新規開発製品において、2020年度末までに2015年度比で平均9%軽量化する	2015年度比-7.3%	2015年度比-10.8%	○
	環境貢献技術*1の取り組みを全技術本部に拡大し、2020年度末までに各事業より2件以上提案する	各事業部1件(計3件)	各事業部1件(計3件)	○
	環境貢献製品*1の売上を2020年度に2015年度比で50%アップする	2015年度比5%アップ	2015年度比19%アップ	○
	グローバル規模の環境負荷物質規制への積極的な切り替え推進を行う	鉛：関係部門展開 フタル酸：顧客調整 開始	鉛：関係部門展開 フタル酸：顧客調整 開始	○
エコ ファクトリ	温室効果ガス排出量(生産高当り)を2020年度末までに2015年度比で9%削減する	2015年度比-2%	2015年度比-2.1%	○
	再生可能エネルギー*2の利用を拡大する	設置シミュレーション完了	設置シミュレーション完了	○
	廃棄物排出量(生産高当り)を2020年度末までに2015年度比で6%削減する	2015年度比+4%	2015年度比-5.1%	○
	再資源化率を2020年度末までに98%以上にする	再資源化率97%	再資源化率97%	○
	水資源使用量(生産高当り)を2020年度末までに2015年度比で16%削減する	2015年度比-14%	2015年度比-15.1%	○
	輸送における売上高当りの温室効果ガス排出量を2020年度末までに2015年度比で10%以上削減する	2015年度比-8.7%	2015年度比-8.8%	○
エコ マネジメント	環境リスク低減活動を通じたコンプライアンスの徹底 底環境法規違反・異常件数 0件	法規違反・異常件数 0件	法規違反・異常件数 0件	○

*1 環境貢献技術・製品：エネルギー消費および温室効果ガス排出量削減に貢献できる技術・製品

*2 再生可能エネルギー：太陽光、風力、水力など自然界に常に存在するエネルギーであり、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となるCO₂をほとんど排出しない、グリーンなエネルギー

一人一人の「働きがい」を大切にしています

従業員一人一人の人権が尊重され、それぞれが能力を発揮しながら、誇りとやりがいを持って働ける職場づくりをめざします。また、すべての従業員に対して公正な労働条件を提供した上で、安全かつ健康的な労働環境の維持・向上に努めます。



人権の尊重

グローバル企業として、企業行動指針や企業行動宣言（CSR方針）に「人権の尊重」をうたい、「人種、皮膚の色、宗教、信条、性別、社会的身分、門地、障がい、性的指向などによる差別や人権侵害行為、強制労働や児童労働を行わないこと」を明記しています。

- 新入社員や階層ごとに人権に関する研修を実施するとともに、毎年12月の人権週間にはポスター掲示などを通じて、従業員の意識の啓発に努めています。

2018年度の取り組み

- 性の多様性についての正しい知識や職場における配慮についてあらためて学び、考えるきっかけとするため、「知っておきたいLGBT*」をテーマに、管理職対象の講演会を開催しました。

* LGBT: L (レズビアン)、G (ゲイ)、B (バイセクシュアル)、T (トランスジェンダー; 出生時の性と自認する性が異なる人) の頭文字をとったもので、多様な性的マイノリティの総称

多様性（ダイバーシティ）の受容

従業員一人一人の多様性を受け入れ、活かすことは、「個人の成長」につながるとともに「企業の競争力強化・成長」をもたらすという考えのもと、ダイバーシティ推進室が中心となって、多様性を尊重する「企業風土の醸成」と「ワークライフバランスの推進」「個人の自立・活躍の支援」に取り組んでいます。

2018年度の取り組み

- 各階層を対象としてダイバーシティの必要性や重要性に関する研修を実施したほか、社内イントラネットを通じた情報発信など、従業員の意識・風土改革に積極的に取り組みました。

Voice 従業員の声



最近、テレビなどで「LGBT」という言葉を耳にするようになりましたが、身近な事柄と捉えていませんでした。しかし、講演を聞いてLGBTと呼ばれる方々が身近に存在し、社会の誤った情報や先入観のもと、日々ストレスを感じながら過ごされていることを知りました。

人は皆それぞれ個性を持っており、LGBTもその個性のひとつです。「LGBTだから」ではなく、一人一人の「その人らしさ」が認められ、生きられる世の中を実現するためには、まずは「知る」ことが必要だと思います。

CI事業本部 事業企画部 担当課長 久米 陽子



ワークライフバランスの推進

従業員が各自のライフスタイルやライフステージに応じた働き方を実現し、家庭と仕事を両立することができるよう、さまざまな施策を展開しています。育児・介護休職制度など各種の制度を整備・充実させるとともに、その利用を促進するための情報発信や意識啓蒙などを行ってきました。このような継続的な取り組みの結果として、2015年5月、当社は兵庫労働局より、「次世代育成支援対策推進法」に基づく特例認定（プラチナくるみん認定）を受けることができました。

- 育児中の従業員がやりがいを持って働けるよう、育児休職者と休職前・復職前・復帰後の3回にわたり行う面談制度や、研修機会を提供しています。
- 従業員の子どもが親の職場を見学する「子ども参観日」を毎年開催しています。



特例認定マーク
(愛称：プラチナくるみん)

2018年度の取り組み

- いつ誰が当事者になるかわからない介護について、イントラネット上で気軽に学べる動画コンテンツを導入しました。
- 2019年4月、新たな勤務制度を導入し、育児・介護を事由とした在宅勤務制度や短時間勤務者へフレックス勤務制を適用するなど、個人の事情に合わせて柔軟な働き方を可能にしました。

女性の活躍推進

女性の働きやすい職場づくりに努め、女性の採用継続、職域の拡大、仕事・育児の両立を支援する制度の整備・拡充と、制度を利用する風土の醸成などに取り組んでいます。

- リーダーシップの発揮に必要な意識改革と社内ネットワークづくりを狙いに、女性従業員向けの研修を実施。その上司を対象とした研修も実施しています。
- 若年層の女性には、今後のキャリアについて考える機会として、先輩社員との座談会や、社外で活躍する女性管理職と交流を行うフォーラムを開催しています。
- 女性の活躍推進に向けた取り組みが評価され、2016年7月、厚生労働大臣より「えるぼし」企業として認定を受けました。



最高ランクの「3段階目」を取得

Voice 従業員の声



働き方改革のひとつとして新たに導入された、テレワークの制度を活用しています。

これまでは平日に行われる子どもの学校行事への参加や、通院の付添いが必要な場合は、通勤距離が長いので、半日休暇では足りず有給休暇を取得していました。しかし今では、テレワークを利用することで自宅での勤務が可能になり、ちょっとした用事であれば有給休暇を使用せずに対応ができるので、とても助かっています。

AE事業本部 基盤技術部 PFソフト技術室 第二技術課 日比野 卓也



心と体の健康支援

「従業員の健康確保は経営の基盤である」という認識のもと、従業員の健康意識を高め、心身両面にわたる自主的な健康づくりを支援しています。2014年度下期以降、支援の施策を「健診・治療」から「心身の疾病予防活動」へ軸足を移し、2018年度は全従業員の健康増進を支えるためのPDCAサイクルの基盤を整備、健康情報の発信や機会提供に重点を置いた活動を展開しました。

2018年度の取り組み

- 将来を見据えた疾病予防対策として、30歳までの若年層（新入社員、27歳、30歳）を対象に健康啓発セミナーを実施しました。
- メンタルヘルス対策として、ストレスチェックの実施および高ストレス者のフォロー、メンタルヘルスマネジメント研修、勤務制限者の管理などを行いました。
- 産業医による海外事業所巡回および現地での駐在員への健康教育を実施しました。

TOPICS

一人一人に合った柔軟な働き方の選択肢が拡大

2019年4月に新たな勤務制度を導入し、所属長の承認のもと、フレックスタイム勤務のコアタイム変更、育児・介護を理由とした在宅勤務などが可能となりました。これにより、例えば育児・介護で短時間の予定が急に入った場合にも、休暇をとることなく勤務が可能になりました。

本社の食堂・体育館を改装し、従業員満足度を向上

当社グループは、グループ全体の従業員満足度を向上させる取り組みの一環として、2018年度は本社の食堂と体育館を大幅にリニューアルしました。

食堂は、3交替制として昼食時の混雑を緩和したほか、栄養バランスを考慮したメニューに更新。内装・設備は清潔さを保ちやすく、視覚的に明るい印象のものへと一新し、食事や会議の際、リラックスして気持ち良く利用できる空間になりました。

体育館は、スロープや多目的トイレを設置するなど、バリアフリー化を図りました。



野菜が豊富に摂れるヘルシーメニューを提供

健康経営を推進

当社は、2018年度を「健康経営元年」と位置づけ、従業員が自立して健康づくりに取り組む活動を展開しています。

2018年度は、生活習慣改善の16コースから選択し3か月間継続して実施する「健康チャレンジコース」、健康経営や生活習慣の改善ポイントを紹介した健康展示会などを実施。これらの活動の結果、2019年2月、経済産業省と日本健康会議が選定する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2019(大規模法人部門)～ホワイト500」に認定されました。

お取引先との公正な関係を維持します

お取引先に対してオープンで公平な取引機会を提供するとともに、法令および契約を順守して公正な関係を維持し、長期的な視野のもと、相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組めます。



調達基本方針

企業行動指針で「公平・公正・透明な企業活動」「公正な取引」などを掲げ、企業行動宣言（CSR方針）においては「サプライヤーなどの取引先を尊重し、長期的視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組むこと」などを明記しています。これらを受けて、調達の基本方針として「オープンで公平・公正な取引」「サプライヤーとの共存共栄」「CSRの推進」を掲げています。

オープンで公平・公正な取引

お取引先からの提案をオープンに募り、平等な条件でお取引先を選定しています。

調達部門の所属員には関連法令に関する教育を実施するとともに、調達担当者は年1回、調達保有能力・スキルの確認を実施しています。

さらに、コンプライアンスラインをお取引先にも開放しています。

相互信頼に基づく共存共栄

お取引先との相互信頼に基づく共存共栄をめざし、お取引先との連携の強化を図るため、毎年、生産動向説明会を開催し、生産情報を共有しています。また、お取引先95社と当社で構成される協力会「天栄会」では、テーマ研究部会の活動などを通じて会員各社との交流を図っています。

CSRの推進

お取引先にもCSRを推進いただくため、さまざまな場で啓蒙・調査・点検をお願いしています。

主要なお取引先には、「仕入先総会」で、デンソーテンの事業方針とともに、コンプライアンス、化学物質管理など、CSRに関連した方針についてもお伝えしています。

また、グリーン調達については、「グリーン調達ガイドライン」最新版をWeb上で開示し、ガイドラインを順守した調達を要請しています。

TOPICS

天栄会 テーマ研究部会で、災害時緊急ガイドラインを見直し

天栄会では、会員各社と当社の双方に共通する「重要課題」を追求するテーマ研究部会が複数活動しています。そのひとつとして、2018年度は「災害時緊急ガイドラインの見直し」をテーマに活動しました。具体的には、大雨・豪雨の発生時の状況確認方法および連絡方法などにおける課題を抽出し、改善を提案。その成果は、他の研究部会の報告とともに、「テーマ研究部会活動報告会」で発表され、ガイドラインの改訂に反映されました。

「誠」を大切にして、社会的責任を果たします

トップのリーダーシップのもと、社会的責任を果たすしくみを整えるとともに、国際社会・地域社会から信頼される企業にふさわしい組織文化を育みます。

社会・地域から信頼される企業をめざして

従業員のあるべき行動を示した「グループ企業行動指針」を定め、ステークホルダーの皆様に対する責任と、企業グループとしてのあるべき姿を宣言する「グループ企業行動宣言（CSR方針）」を策定し、運用しています。

Web ▶ [デンソーテングループ企業行動宣言（CSR方針）](#)

コンプライアンス

当社グループは、事業活動に関わる法規制などを明確化するとともに、社内ルール、教育プログラム、監視体制を整備し、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

2018年度の取り組み

- 国内製造業でコンプライアンス問題が発覚している状況を踏まえ、従業員の意識の醸成を図るべく、品質展示会において、コンプライアンス・技術者倫理に関するパネル展示を行いました。

事業継続マネジメント

事業継続計画とともに、南海トラフ巨大地震に備え、神戸本社地区を中心に防災計画を整備しています。また、災害発生時に方針・方策を決定する災害中央対策本部などの復旧支援体制を整備し、事業継続マネジメントの強化を図っています。

2018年度の取り組み

- デンソーテン フィリピン（TNPH）は2018年5月、事業継続マネジメントの国際規格であるISO22301の認証を、当社グループで初めて取得しました。

情報セキュリティ

情報漏えいなどのリスクの高まりに対応し、各種規程の整備や監査を実施するとともに、全従業員を対象としたeラーニングによる教育など、情報セキュリティの強化に努めています。

- ISMS国際規格（ISO/IEC27001など）*をベースに、情報管理マネジメントシステムを構築・運用。全社で自己点検・監査を実施しています。

* ISMS（Information Security Management System：情報セキュリティマネジメントシステム）に関する国際規格

2018年度の取り組み

- 製品のセキュリティインシデントの対応窓口としてPSIRT*体制を構築し、窓口と関連技術部門、品質保証部門などとの連携を進めました。

* PSIRT（Product Security Incident Response Team）：「自社が手がける製品やシステム」に対するインシデント対応チーム

より豊かな社会・地域づくりに向けて

「私たちも社会の一員である」という自覚のもと、企業活動を通じて、より豊かな社会・地域づくりに貢献します。

2018年度の取り組み

- 従業員がボランティア活動に参加するきっかけの場づくりに継続して取り組んだことに加え、障がい者スポーツへの支援の強化をスタートさせました。
- 環境貢献活動においては、「社員が社会とともに取り組む社会貢献活動」「生物多様性などの社会・環境課題の解決に取り組む活動」について、それぞれ「1件以上／拠点」を目標とし、その目標を達成しました。



兵庫県障害者アスリートマルチサポート事業の卓球交流会に、卓球部が指導者として協力



地域の小学生を対象とした工作教室を当社スタッフがサポート



大学生ビッグバンドジャズの全国大会をはじめ、さまざまな音楽イベントに協賛



デンソーテン フィリピン (TNPH) では、マングローブ群生地の保護のため植林を実施

Voice 従業員の声



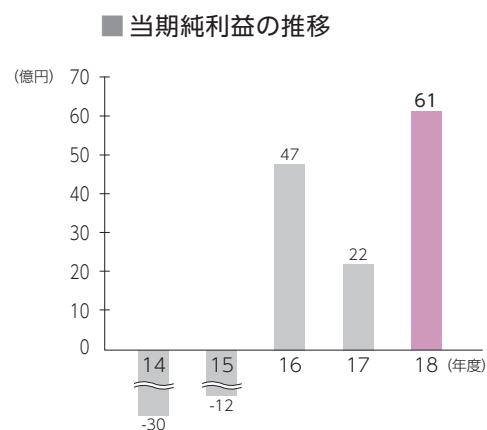
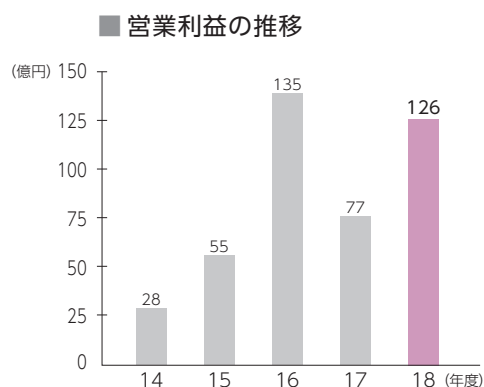
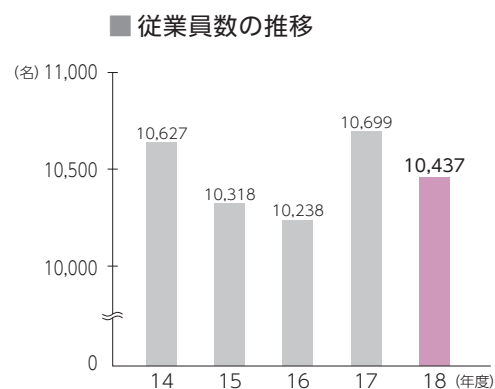
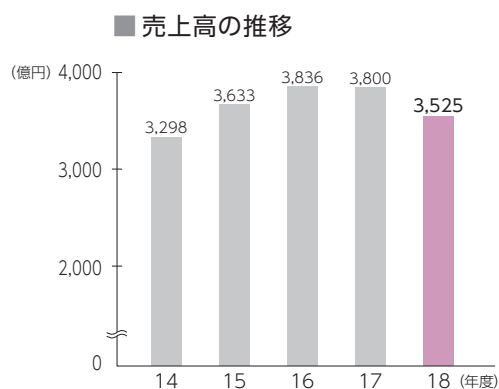
卓球交流会に参加して

兵庫県障害者アスリートマルチサポート事業に参加させていただき、少しは皆様のお役に立てたという喜びとともに、普段交流の機会がない方々と卓球をさせていただくことで、私たちも貴重な経験ができました。

今後も積極的に社会貢献活動に取り組んでいきたいと思っています。

AE事業本部 品質保証部 開発環境課 デンソーテン卓球部所属 福岡 亘二

■ 財務報告(連結)



※記載金額は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しています

※各数値は、デンソーテングループ管理会計基準に基づく値であり、会計監査を経た会社法に基づく内容ではありません

決算概況

当期の業績は、カーナビゲーション・オーディオなどOEM製品のモデル切り替えや、当社製品装着車両の販売減などにより、連結売上高は3,525億円(前期比7.2%減)と減収になりました。損益については、減収による粗利益減影響があるものの、経費低減活動や前期に発生した資本構成変更に伴う費用が解消されたことなどもあり、営業利益は125億6千万円(前期比63.5%増)、当期純利益は60億5千万円(前期比175.3%増)と増益になりました。

次期の業績については、OEM製品のモデル切り替えなどにより減収となる一方、将来に向けた開発投資を積極的に行う結果として、連結売上高3,367億円、営業利益43億1千万円、当期純利益14億9千万円を見込んでいます。

当社事業領域は、技術革新や自動車業界の枠を超えた提携の動きの拡大が見込まれます。このような環境の中、当社グループは、コネクティッド・電動化・シェアリングサービスなどの市場の変化と拡大を着実に捉え、新たな発展に挑戦してまいります。

■ 会社概要

社 名 株式会社デンソーテン

所 在 地 本社
〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28
TEL 078-671-5081

代 表 者 代表取締役会長 岩田 悟志
代表取締役社長 加藤 之啓

設 立 1972年10月25日

資 本 金 53億円 (2019年3月31日現在)

株 主 株式会社デンソー
トヨタ自動車株式会社
富士通株式会社

主な事業

■コネクティッド事業

クラウド連携ドライブレコーダー、緊急通報システム、AIを活用したタクシー需要予測サービスなど

■CI事業

ディスプレイオーディオ、カーナビゲーション、CDチューナーなど

■AE事業

エンジン制御ECU、エアバッグECU、ハイブリッド車用ECU、電動パワーステアリングECUなど

■ 事業所一覧 販売／生産／研究・開発／物流・その他 **Web ▶** 事業所一覧

*印の拠点は本報告書の報告範囲に含まれません

■ 国内拠点 ※デンソーテンとデンソーテンマニュファクチャリングは2019年4月、合併しました

株式会社デンソーテン

株式会社デンソーテンテクノセプタ

株式会社デンソーテンスタッフ

株式会社デンソーテンテクノロジ

■ 海外拠点

アジア／オセアニア

オーストラリア **DENSO TEN AUSTRALIA PTY. LTD. (TNAU)**

フィリピン **DENSO TEN PHILIPPINES CORPORATION (TNPH)**
DENSO TEN SOLUTIONS PHILIPPINES, CORPORATION (TNSP)

タイ **DENSO TEN (THAILAND) Limited (TNTH)**

シンガポール **DENSO TEN SINGAPORE Private Limited (TNSG)**

インド **DENSO TEN MINDA INDIA Private Limited (TNMI)**
MINDA D-TEN INDIA Private Limited (MTNI)*

インドネシア **PT. DENSO TEN MANUFACTURING INDONESIA (TNIA)**
PT. DENSO TEN AVE INDONESIA (TNAI)*

韓国 **DENSO TEN KOREA Limited (TNKR)**

中国 電装天(中国)投資有限公司 (TNCH)
電装天電子(無錫)有限公司 (TNWX)
電装天精密電子(天津)有限公司 (TNPT)*
電装天国際貿易(天津)有限公司 (TNIT)
電装天研究開発(天津)有限公司 (TNRT)

ヨーロッパ

スペイン **FUJITSU TEN ESPAÑA, S. A. (FTESA)**

ドイツ **DENSO TEN EUROPE GmbH (TNEU)**

米 州

アメリカ **DENSO TEN AMERICA Limited (TNAM)**
DENSO TEN TECHNOSEPTA USA, Limited (TNAT)*

メキシコ **DENSO TEN MEXICO, S.A. DE C.V. (TNMX)**

ブラジル **DENSO TEN DO BRASIL LTDA. (TNBL)**

CSR 報告書2019を読んで



阪 智香 (さか ちか)

関西学院大学学長補佐・商学部教授・商学博士
現在、日本学術会議連携会員、大阪府環境審議会委員、日本経済会計学会理事、日本社会関連会計学会理事等。著書に『環境会計論』(東京経済情報出版)等。日本会計研究学会学会賞等受賞

全 体

今年のCSR報告書では、2018年に新しく見直された環境取り組みプランに基づく実績やSDGsへの対応が示されています。この新しいプランは、計画期間を従来の3年から5年とし、エコビジョン(2017年制定)の2025年ターゲットとの整合性を確保したものです。2018年度の実績からは、すべての分野の目標がグローバルレベルで達成されていることが確認できます。冒頭の特集では、「AI需要予測サービス」が、エネルギー消費削減、生産性向上、働き方改善などの社会課題解決に結びつくことが示されており、CSR活動の広がりを感じます。また、昨年に引き続き、CSR重点課題ごとに、継続的な取り組みや新しい取り組みが丁寧に開示されており、適合性・明瞭性・比較可能性を備えた報告書となっています。

重点課題分野別の取り組み

「消費者課題」では、品質向上・製品安全確保と人材育成とを一体として、全社的かつ継続的に取り組まれている内容が記載されています。

「環境」では、環境取り組みプランが着実に成果をあげており、ISO14001:2015のグローバル統合認証取得(2017年)の効果が現れているものと評価できます。時系列の実績と併せて見ても、継続的な環境負荷削減が実現されていることがわかります。また、環境マスパランス(グループの事業活動全体のインプット・アウトプット

データ)、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量、環境会計、サイトデータ等の詳細な環境データが開示されていることも、報告書の網羅性や過年度との比較可能性を高めています。

「人権・労働慣行」では、9頁に及ぶ充実した取り組み内容が記載されており(詳細版)、介護との両立や柔軟な働き方を支援するような新しい取り組みも記載されています。とりわけ、2018年度を「健康経営元年」と位置づけ、全従業員を対象として様々な健康増進活動が始められ、早くも2019年2月には「健康経営優良法人～ホワイト500」に認定されるなど、短期間で成果につなげた本気度が伝わります。

「公正な事業慣行」では、近年の豪雨による水害被害の発生を受けて「災害時緊急ガイドライン」の見直しもなされました。

加えて、事業継続マネジメントの国際規格であるISO22301の認証取得や、製品セキュリティインシデント対応窓口の体制構築といった2018年度の実績が盛り込まれています。

今後に向けて

2019年度にはCSRの重点課題やKPI(重要業績評価指標)の見直しを行い、事業を通じた重点課題を取り込み、各事業部を加えた新しい推進体制がとられる予定のようです。これまでの真摯で着実な取り組みを土台として、事業を通じた社会課題解決を強化し、その道筋と進捗状況をより明確にすることで、CSR活動のメインストリーム化と質の向上が実現できるものと期待します。財務KPIや環境・社会KPIを連結管としてSDGsへのより具体的な対応も可能となるでしょう。健康経営への取り組みも先進的かつユニークで、長期的には企業価値の向上にも結びつくと思います。健康経営のモデル企業として、他の企業にも広がることを願っています。自動車業界を取り巻く100年に1度という転換期を迎え、企業の在り方や従業員の働き方に対する意識から変革しようとする姿勢は、日本経済の課題である生産性改革にもつながるものと期待しています。

ご意見をいただいて



株式会社デンソーテン
執行役員常務

後 藤 俊 樹

阪先生にご意見をいただくのは4年目になります。

これまで先生にいただいた貴重なご意見は、私たちのCSR活動を充実させるための参考とさせていただいております。この場をお借りして、改めて心より感謝を申し上げます。

今年は、環境取り組みプランに基づく継続的な環境負荷削減や、個人の事情に合わせた柔軟な勤務制度の導入をはじめとする働き方改革の取り組みなどに、高い評価をいただきました。

特に健康経営については、経営トップ以下、「健康でなければ良い仕事はできない」との信念を持って取り組んでおり、今回高く評価していただいたことを励みに、今後、よりいっそう推進していきたいと思います。

私たちは現在、SDGsを踏まえて、事業を通じた社会課題の解決に向けた活動を加速させるべく、CSR重点課題およびKPIの見直しを進めています。100年に1度といわれる自動車産業の変革期にあっても「誠」の精神を大切に、よき企業市民として社会課題の解決に真摯に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

当社グループの活動や本報告書に対して、率直なご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

